

日銀神戸 支店長の 視点



別所昌樹氏

休日、城崎までドライブしてきました。外湯を楽しんだ後、豊岡市立歴史博物館に寄ると、「大貯金箱展」という展示が目に残りました。尼崎にある貯金箱専門の博物館の収蔵物の一部を、9月24日まで展示するそうです。

懐かしいキャラクターの貯金箱を眺めるうちに、子供の頃に勉強机の上にあった貯金箱を思い出しました。振り返るとそれが、お金を使い、貯め、増やすことを学ぶ始まりだったのかもしれない。

数十年を経た今、日本銀行神戸支店長として兵庫県金融広報委員会の会長を務めています。行政、金融機関などの関係団体の方々と連携し、中立・公正な立場から、暮らしに役立つ金融経済情報を提供

貯金箱と「おかねの学び」

したり、学校や職場、地域などでの金融経済学習をお手伝いしたりする役回りです。

兵庫県は、2022年の「金融リテラシー調査」によると、金融知識を尋ねる設問の正答率が全都道府県中10位とまますますの水準でした。また資金運用の際に他の商品と比較した人の割合が3位、緊急時に備えた資金を確保している人の割合は4位と高い一方、金融トラブル経験者の割合は46位と低く、賢くお金と接している姿が浮かびます。

もっとも、金融知識の向上には継続的な取り組みが必要です。また投資・資産形成だけに偏らず、家計管理・生活設計も学ぶことが大事です。

この8月、「金融経済教育推進機構」(J-FLEC)が本格的に活動を始めました。金融経済教育を官民一体で戦略的に実施・強化する中立的な組織として設立されたものです。兵庫県金融広報委員会は今後、この機構と連携して活動を続けます。どうかよろしく願います。